



日刊 日一月七  
昭和十四年七月二日  
発行所 平野新聞社  
編集者 平野新聞社  
印刷所 平野新聞社  
電話 二二二二  
郵便番号 二二二二

### 生糸の現在相場が

#### 夏秋登まで続くか

#### 但し繭値は九十圓程度

石双支部の春繭も愈々終期となり、今年度の相場は登登家なるなら大理想に近いものにも登期せぬ高値で大福々である、斯んな高値がなせ出たかと云へば、前相場の十一圓台に弱られたもので起算の繭弱な馬鹿高に製糸家側では女工を遊ばすよりも操業した方がと云ふ心理と先高を見越す思惑などで遂々不健全な相場に引摺られて了つたが其の後の傾向は漸落をたどり四倉市場より若干遅れた植田が白繭九五圓、黄繭八九圓の平均で次ぎに坂下方面の取引は白繭八六圓と云ふところまで落ちて来て漸く目下の糸價に均衡がとれようになつて来てゐる、現在の糸價は千七百八十圓で此の相場に對しての豊林省は生糸市場が千圓から

### 縣藥劑師會の總會

#### 平から四氏、郡から三氏出席

本縣藥劑師會第四回の總會は明日午前十時から郡山市商工會議所會堂に於て開催されるので平市から四名、石城郡部から三名の左記七氏出席の筈だが總會には會務報告の外十二年度決算、十四年度豫算、一家二名以上の會員の會費額、日本藥劑師會議員及び豫備議員選挙、公營藥

### 支那單語

家のことは房子でフアンツ、門または戸をメン、中庭のことをユアンツ、部屋は屋子でウインツ、客間はコーナーティン、食堂をフアンティン、書齋を書房と唱ひてシューファンと云ふ

### 護國の柱

平市出身勇士 豊田勝一伍長、平市宇杉平出身金澤部隊に屬し活躍されてゐたが去月九日無事附近の戦場で名譽の戦死を遂げる旨隊長から實家へ通

### 矢吹原修鍊農場

#### 男女修鍊生募集

#### 今夏季中四期に分けて

縣立矢吹原の修鍊農場は今夏季中左記の短期修鍊生を募集の筈で各郡下に入所生の證書を託してゐるが入場資格は十六年以上高等小學校卒業程度以上のもの思想堅實身體健康で現に農業に従事したるに従事せんとするものを市町村長或は振興委員、出身學校長の推薦によつて採ることになつてゐる費用は縣から食費を補助されるので若干の小遣があれば充分である由

### 需要者への市

平市三丁目三井呉服店横町に毎年夏季から開かれる舊平産の蔬菜市は「生産者から直接需要家へ」の意味で好評を得

### 支那單語

てゐるが今年例年より十日早い今一夜から九月末まで開市することになつた

### 立憲義正演説會

立憲義正會本縣第三區聯合支部では本郡から幹事森尾津一、同神戶公雄兩氏の派遣を求め聯合支部長齊藤光、石城聯合

### 戦地の便り

#### 放郷からの便りが

#### 何よりの慰めです

謹啓、緑の濃き支那大陸、日なき討匪の陣中支の第一線より遙か祖國歸後の皆様の御健勝を御祈り致します、小生此の度大命を奉じ渡支以來〇〇其の間意外なる御無沙汰致し誠に申譯なく何かと多忙に追はれ不本意乍ら悪しからず御許しの程伏して御願ひ申上げます、我々至極志氣旺盛に地到着以來日夜夜戦兵掃討に警備等最度度か幸ひ負傷もせず願う元氣にて精勵致し居りますれば何卒御放心下さい、最早や當地は炎熱焼くが如く見渡す限りの曠漠たる原野に太陽の照りつ

### 満支の視察から

本縣歸郷 關内正一氏 江までお伴させて頂きます御用は仰せつけ下さい、私が手紙を不自由そうに書してゐたら、テーブルを備へて来て、「お暇下さい」と云ふ、間もなく専務さんが「お暇下さい」と云ふ、税関車が税関調査に来た、簡単に済む、鐵甲姿も勇ま

### 幼兒川に轉落死

小名濱町の宇落佐藤勇傳君が四日は昨日正午頃食事に歸らぬので八方捜してゐると午後〇時半頃自宅西方約四十間ほど隔たる藤原川に轉落溺死してゐるを發見された

### 婿養子悲觀縊死

石城郡赤井村の赤井字常住中西照次(三)は同家へ婿養子となつたが家庭の折合悪く悲觀して去十七日家出不明となつたので行方捜索中のところ昨

### 菊地巡查の献金

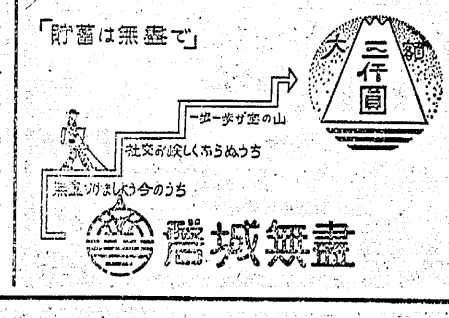
平野在勤菊地利氏は捕賊賞與金一回也を其まゝ今日恤兵

### 無盡蔵

三十日午後六時頃同村畑子澤地内山林で縊死してゐるのを通行人の金成安吉が發見届出でたより今日平野の検視を受けた

### 無盡蔵

ある者、約一ヶ月の豫定で日本内地へ見學を命ぜられ歸郷の途中であつた一日日本見學の感想如何かと問ひに彼氏曰く「何もかも想像以上だつた、先づ皇居の神聖なること、重工業の驚異的躍進、氣候良好のため二毛作の出来ること、女性の働くこと、加ふるに風光絶佳なること等々」日本人に生れた人は幸福なりと結んだ。



無盡蔵 三行圖

